

令和 2 年度 第二回緩和ケア・在宅医療部会 議事要旨

日 時：令和 2 年 9 月 30 日(水) 16：30～17：48

場 所：琉球大学病院がんセンター(ZOOM 会議)

出席者 10 名：笹良剛史（豊見城中央病院）、野里栄治（北部地区医師会病院）、屋良尚美（中部病院）、三浦耕子（中部病院）、足立源樹（那覇市立病院）、中島信久（琉大病院）、中村清哉（琉大病院）、友利あかね（琉大病院）、名嘉眞久美（がん患者会連合会）、増田昌人（琉大病院）

欠席者 3 名：酒井達也（八重山病院）、伊波善之（沖縄県健康長寿課）、朝川恵利（宮古病院）

陪席者 2 名：有賀拓郎（琉大病院）、内間みなみ（琉大病院）

報告事項

1. 令和 2 年度 第 1 回緩和ケア・在宅医療部会 議事要旨

資料 1 に基づき、笹良委員より令和 2 年度第 1 回緩和ケア・在宅医療部会議事要旨についての報告があり、承認された。

2. 令和 2 年度緩和ケア・在宅医療部会、研修 WG、在宅 WG 委員名簿一覧

資料 2 に基づき、令和 2 年度緩和ケア・在宅医療部会、在宅ワーキング委員の確認がされた。

3. 令和 2 年度 緩和ケア研修会開催日程一覧表

資料 3 に基づき、令和 2 年度の緩和ケア研修会開催日程一覧が確認された。

足立委員より、那覇市立病院は 12 月 12（土）か 12 月 19 日（土）に開催を検討しているという報告があった。

4. 令和 2 年度第 1 回緩和ケア・在宅医療部会在宅ワーキング議事要旨

資料 4 に基づき、笹良委員より令和 2 年度第 1 回緩和ケア・在宅医療部会在宅ワーキング議事要旨について報告があった。

5. 「沖縄県がん対策推進計画の中間評価」と「沖縄県医療計画（がん分野）の見直し」について

資料 5 に基づき、増田委員より新型コロナの影響で会議が延期となり、今年は難しいと思う。状況が分かり次第情報共有するという報告があった。

6. その他

特になし。

協議事項

1. 今年度の事業計画進捗について

増田委員より、先日行われた協議会にて、沖縄県のがん計画と協議会のがん計画案に基づいて毎回、協議会で各部会の進捗状況を報告することになった。今後、全ての部会で指標等を示

していきたい。この部会で何をしたいのかを皆様と考えていきたいという報告があった。

2. 痛みのスクリーニングと結果のフィードバック及び主治医（チーム）の行動変容について

(1) 琉球大学病院

友利委員より、資料5に基づき報告があった。

(2) 那覇市立病院

足立委員より、資料6に基づき報告があった。資料を作成した吉澤委員より、具体的に何を報告すればいいのかという疑問があり、次は項目を細かく提示することで報告し易くなるのではないかという意見があった。

(3) 県立中部病院

屋良委員より、資料7に基づき報告があった。

笹良委員より、外科病棟ではスクリーニングやモニタリングはあまりやってないようだが外科外来は割とやっているということは、ナースサイド側の業務の多さなども関係しているのかという質問があり、屋良委員より、病棟は目の前のことに追われていてスクリーニングは後回しになっているとけっこう聞く。また、難しい質問をされるのが怖くて痛いか痛くないかだけ確認してその後の看護介入という所までもっていけないので、少し教育が足りないのかなと感じる。外科外来は、緩和ケア認定看護師が配置されたため、積極的に行っているという回答があった。

(4) 豊見城中央病院

笹良委員より、豊見城中央病院は病院移転の前後でシステムの整備が未だ追いついていない状況である。外来でのスクリーニング、病棟での痛みのモニタリング等、痛みの疼痛評価はずっと続けているという報告があった。

中島委員より、三年前からこのテーマがあるが、状況はあまり変わっていない気がする。やっているところはやっているけど、あまり広がっておらず、得られる数字も劇的に変わっていない。良し悪しではなく、目的に対してどうしたらいいのか考える項目を見繕い、それを基に検討する項目を明らかにしないとまた検討項目もいっぱい広がって労力の割には次に繋がらないと思うという意見があった。

笹良委員より、スクリーニングは継続される必要はある。特に痛みについてはしっかり聞いていくというのが文化として定着するであろうという事でやってきた。それがなかなか定着しないという原因解析も含めて、報告検討できるといいという意見があった。

3. 緩和ケア情報シートの運用について

増田委員から、資料9に基づき、緩和ケア情報シートの運用状況について報告があった。

与勝病院から緩和ケア情報シートを使っているのを見たことがない。実際県で使っている人はいるのかという質問があったことから、改めて、8月20日付で全ての診療病院に「沖縄県

緩和ケア情報シート」の改訂版（ver. 3.0）使用について（資料9）の文書を送付したという説明があった。緩和ケア情報シート（ver. 3.0）を使用して頂く為には、緩和ケア病棟がある6病院の連携室に話をして緩和ケア情報シートを使ってない患者様に対しては、受入れ拒否して頂くのが一番いいのではないかと思うが、それができない理由があるのかという質問があった。

名嘉眞委員より、与勝病院では緩和ケア情報シートをもらっているのは6割程度。緩和ケア情報シートが無い事に慣れてしまっていて、なくてもいいかなという状況で進んでいるということケースワーカーから聞いている。現在、緩和ケア病床は18床で緩和ケア情報シートを持ってきているのは1例だけという報告があり、書き難いということもあるのではないかという意見があった。

笹良委員より、与勝病院、アドベンチストメディカルセンター、沖縄病院、オリブ山病院、赤十字病院（未回答）、豊見城中央病院を対象に実施した「緩和ケア情報シートの利用状況のアンケート結果」に基づき報告があった。与勝病院以外の病院では、がん拠点病院やそれ以外の病院から紹介の際には緩和ケア情報シートをほぼ受け取っているという調査結果になった。与勝病院は、がん拠点以外の病院からの紹介が割と多いと思うので、その病院が緩和ケア情報シートを使用していないことが推測される。また、緩和ケア病棟から在宅に移る際も、緩和ケア情報シートはほとんど利用されていないということが明らかとなったという報告があった。

足立委員よりアンケート結果から、これが問題になっているのは与勝病院だけなので、与勝病院にどういうところから患者が来ているのかを調べて、その病院に緩和ケア情報シートを書いてくださいと言えば済む事ではないのかという意見があった。

中島委員より、おそらく与勝病院への紹介患者の半分は中頭病院から来ていると思う。中頭病院からどのように与勝病院へ送っているのか緩和ケアナースに確認してみる。県で統一するメリットを言えば、割とみなさん協力してくれた経験もあるという報告があった。

調査結果のフィードバック後、次回議論することとなった。

4. 今年度の拠点病院及び診療病院に対する現況調査について

増田委員より、資料10に基づき、現況調査について報告があった。

全国的な問題になっているのが、医師に聞かずに事務的に回答を出している病院もあるということ。関わっている先生方に調査項目一つ一つ確認して頂きたい。先生方が確認することによって、拠点病院として、患者様に何をすれば良いのかということの一つの目安となる。何を求められているのか、指定要件を具現化した物なので、やるべきことが非常にわかり易く書いているので、医師・看護師などの医療者に確認して頂きたい。

調査項目や拠点病院の調査結果は国立がんセンターのホームページで公開されているので、ダウンロードして各病院で使用することも可能だと思うという説明があった。

5. 拠点病院におけるPDCAサイクルの確保について

増田委員より、来年度は指定要件及び現況調査の項目に入ってくると思うので、今のところは絶対条件ではないが、この部会でどうするのかを次回の会議で議題に挙げ、議論したいという報告があった。次回、資料として研究班で実施している雛形を共有する。

6. 拠点病院間の訪問実施調査について

協議事項5と併せて報告があった。

7. 次回令和2年度第3回緩和ケア・在宅医療部会の日程について

候補日①：令和2年12月2日(水)16：00～17：00の間で概ね1時間予定

候補日②：令和2年12月23日(水)16：00～17：00

場所：ZOOMによるWeb会議を予定

後日、調整さんにて日程調整をすることとなった。

8. その他

特になし。